

品質経営度調査ベンチマーク支援サービス 総合レポート サンプル

株式会社 日経リサーチ



エグゼクティブサマリー

評価結果からわかる貴社の強みと弱みが確認いただけます。

①6側面ベースでの貴社の位置付け

- 6側面のうち、最も貴社の強みとなる側面…

プロセスの確立・順守

- 6側面のうち、最も改善が期待される側面…

トップのコミットメントと方針管理

②52項目ベースでの貴社の位置付け

- 52指標のうち、貴社の強みと考えられる項目

項目名	参照Q番号
[14] コンプライアンス・モラルハザード、働き方改革と品質経営	AQ27～30
[22] 品質経営教育に関わる費用の把握	AQ22
[31] 業務結果の正常・異常判断と異常の場合の共有・応急処置	BQ27
[42] 中長期的な観点からの技術開発	BQ11

- 52指標のうち、指定企業と比較してギャップがあり、かつ貴社の業種・業態から考えても改善余地ありと考えられる項目

項目名	参照Q番号
[6] 品質経営推進組織の設置	AQ11
[15] 品質方針の策定	AQ5
[17] コロナ禍における現場の空気感を実感する努力	AQ9
[21] 全社の『製品』の市場品質不良コストの把握項目	AQ19
[40] 顧客需要の調査と新製品への反映	BQ8

Ⅱ - 1. 貴社のポジショニング（総合・6側面ベース）

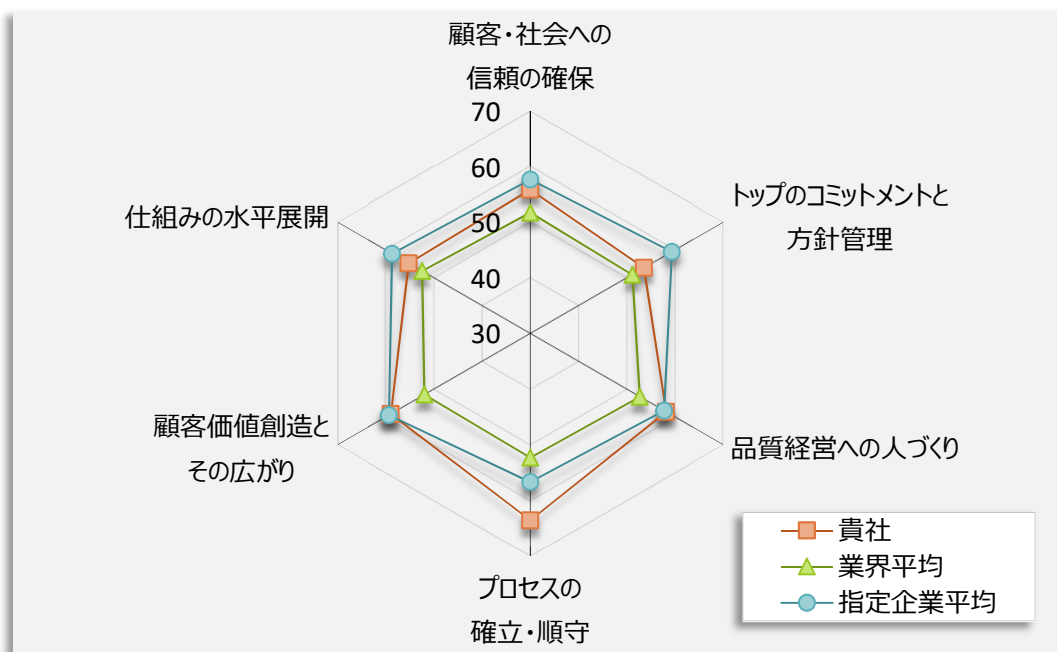
Ⅱ. 分析結果

6側面の、貴社偏差値と指定企業の平均偏差値が一覧で確認できます。

貴社の所属業界： 電気機器

全対象企業数： 152 社

	総合	① 顧客・社会への 信頼の確保	② トップのコミットメントと 方針管理	③ 品質経営への人づくり	④ プロセスの 確立・順守	⑤ 顧客価値創造と その広がり	⑥ 仕組みの水平展開
貴社スコア	58.2	55.9	53.6	58.2	63.6	59.0	55.3
業界平均スコア	51.0	51.8	51.2	52.7	52.3	52.0	52.5
指定企業平均	59.1	57.7	59.4	57.8	56.7	59.4	58.7



指定企業：

細かな評価項目ごとに、貴社と指定企業の平均偏差値が一覧で確認できます。

This visualization appears to be a complex network or phylogenetic tree. It features a central vertical axis with horizontal bars extending left and right, resembling a dendrogram or a hierarchical structure. Overlaid on this are several paths: a prominent orange line with square markers, a blue dashed line with diamond markers, and a green dotted line with circular markers. The background is light gray with horizontal white lines, and the overall structure is symmetrical around the central axis.

全企業の最高偏差値

© Nikkei Research Inc. All Rights Reserved

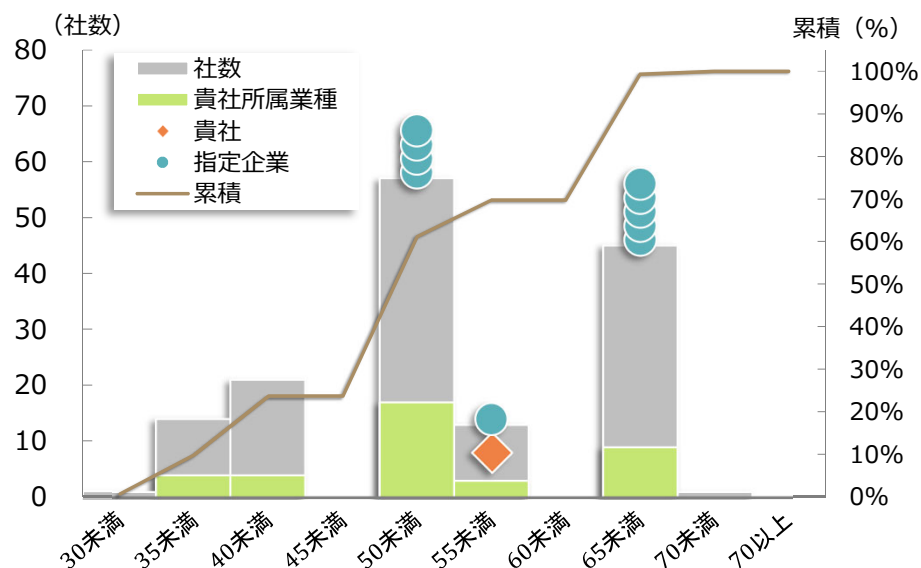
Ⅱ-3. 貴社のポジショニング（6側面詳細・指標ごと）

Ⅱ. 分析結果

各評価項目について、ヒストグラム形式で貴社のポジショニングが確認できます。

顧客・社会への信頼の確保

[1]品質重視の考え方の位置付けと普及

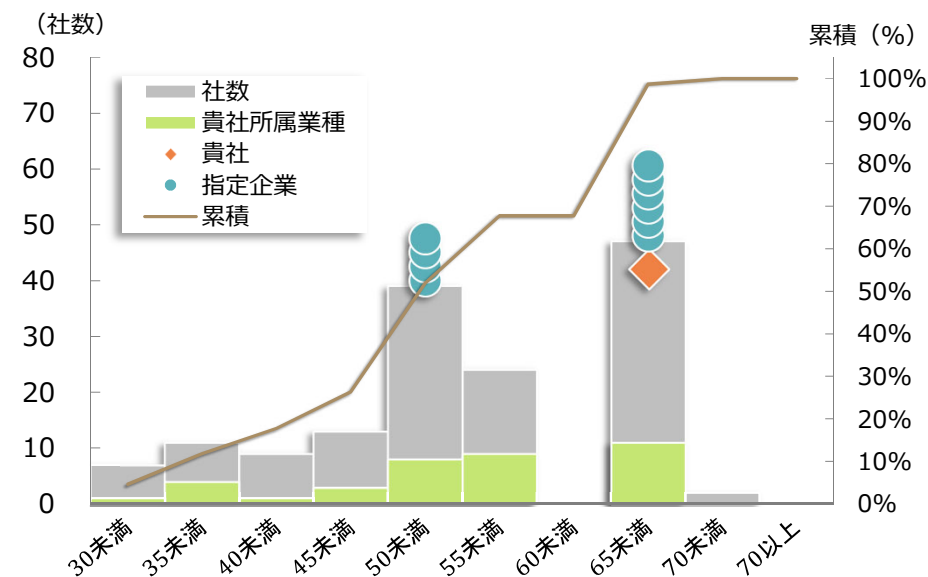


貴社偏差値

51.1

	社数	最高	最低	平均	中央値
全体	152	69.8	24.9	50.0	47.3
貴社業種	37	62.3	32.3	49.2	
指定企業	10	62.3	47.3	55.6	

[2]企業理念への人間性尊重の考え方の反映



貴社偏差値

60.0

	社数	最高	最低	平均	中央値
全体	152	65.6	26.5	50.0	48.8
貴社業種	37	60.0	26.5	50.3	
指定企業	10	60.0	48.8	55.5	

Aパート・SQおよびベストプラクティス集の高評価回答

※体裁を整えるため、文章は一部改変しています。また、企業が特定されるような具体例や固有名詞は一部加工しています（「●」）
※ここで掲載しているのは加点対象となった回答の一部で、全てではありません。企業が特定されかねない内容の場合などは掲載の対象から外しています。

AQ3：品質重視の理念に基づく収集・分析と品質活動への反映/直近

2030年のありたい姿「変化を先取りした品質・安全管理」に向け、社会の変化と市場の変化の2つの側面から日々活動を進めている。1）社会の変化の先取り：約4,000種類にも及ぶ化学物質を取り扱っており、その適正な管理はきわめて重要な責務と捉える。当該物質に関する法改正の動向を常に注視するため、海外拠点と連携して情報収集する体制を強化。2021年度は、その範囲を欧米エリアに加え中国エリアにも拡大。引き続きより厳しい自主管理基準を設け、適正な化学物質管理を実施する2）市場の変化の先取り：重点領域の一つに掲げる「次世代モビリティ」に関する国際規格IATF16949の認証取得を進め、2021年度には事業展開するうえで先行取得を必要とする拠点の約●%が取得を完了。

AQ4：品質活動責任者と推進組織/長期

品質リスク極小化・品質改善の推進施策の1つとして●年より「週別リスク検討会」を開催している。この検討会には、生産・R＆D部門の全役員・監査役・部署長、お客様センター長らが参加し、お客様の声、各事業の品質課題、ヒヤリハット、更には他社回収事例、法規制、安全性関連論文等のタイムリーな情報共有と対応策の論議を行っている。直近著しく効果を上げた事例：1つ目は●●自主回収で得た学びの全社展開。当該案件で法規制改定についての感度の鈍さが認識されたため、全事業全商品の総点検を実施し脆弱箇所を是正することを検討会で決定・推進。一部商品に脆弱箇所があったが速やかな是正に繋がった。失敗を教訓に総点検ができ、活動を通じて各社の品質マインドが醸成された。2つ目はリスク情報先取り対応。グローバルレベルで注目されることが予想されるマイクロプラスチック問題、有機フッ素化合物問題等を同検討会にインプットしてプロジェクトを立ち上げ、海外グループ会社も含め確実な未然防止活動を進めてきた。同検討会をうまく活用することで、品質課題のPDCAを高速で回すことができている。

AQ5：品質方針の策定/長期

高信頼性推進活動社長をトップとして生産技術員会を設け、同委員会の中に高信頼性推進部会、設計技術部会、ものづくり部会、技術標準化部会を設置し、各部会が連携して生産技術の向上に取り組んでいる。その中の高信頼性推進部会で高信頼性活動方針を掲げ、社長承認のもと、全社に展開してロスコスト削減、品質健全性向上活動を推進している。この活動方針にて全社が一気通貫でベクトルを合わせて品質改善活動に取り組むことが出来ている。重点施策に上げた項目は全社で横断的に取り組んでいる。試験・検査の自動化、SPC管理にも継続して取り組み、ヒューマンエラーを減らして工程内品質を大きく改善した。また流出する市場クレームも大きく減少させ、品質不正が起きる不安も無くなった。毎年、発生した重大クレームを全て洗い出し、再発防止の有効性を再点検する再発防止診断を継続して実施している。有識者が突っ込んで診断する事によって自己評価の甘さが浮き彫りになり、自己診断のみでは改善できなかった項目をかなり改善させる事が出来た結果、ロスコストを削減出来た。有識者レビューの精度も上げた。

AQ6：品質以外の重要課題に関する方針管理活動/長期

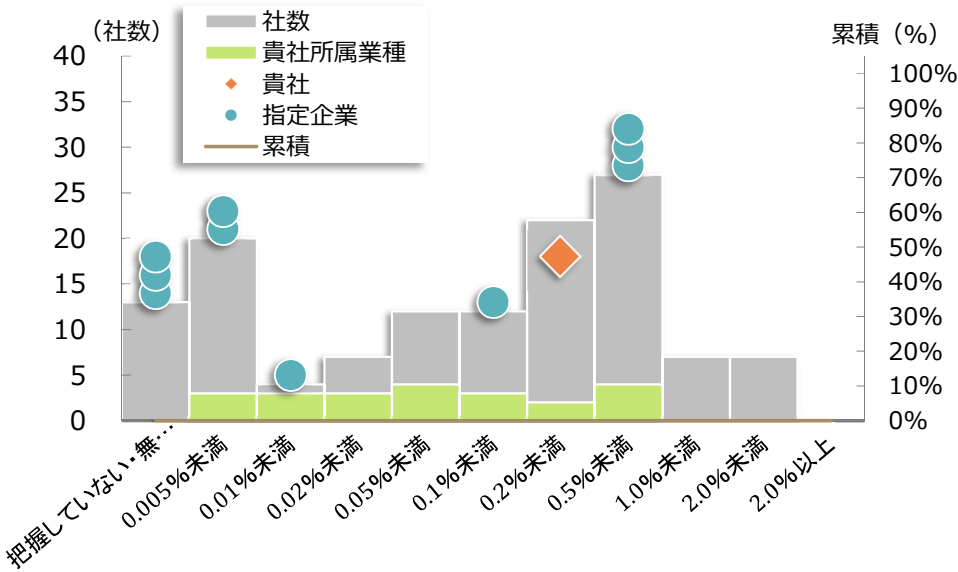
社長主導で2050年を見据えた●●グループビジョンを策定し公表。カーボンニュートラルとデジタル社会への貢献を目指した5つの変革を推進中①ESGを経営の中心に位置付け推進統括部門を設置、品質経営では社長メッセージの発信、従業員へのアンケート、双方向コミュニケーションの実施に加え問題の気づきを大切にする意識教育を行い何でも言える企業風土作りの土台を構築②競争力強化のため生産プロセス（ものづくりチェーン）の革新を推進、デジタル技術で生産条件を見える化し全生産拠点でデータを共有/活用③新製品で売上高1千億円を目指す「●●」を掲げ推進部門を新設。カーボンニュートラルとデジタル社会に関連した新製品への注力と、マテリアルズ・インフォマティクス手法を用いた革新的な●●材料開発を推進④社外との協働の拡大と価値提供への拡大を目指し自治体と共同で株式会社（●●）を設立、●●を使って地域が再生可能エネルギーを有効利用できるサービスの提供を開始⑤上記取組をDX活用で推進するためデジタルビジョンとロードマップを策定し推進統括部門を新設。

AQ6：品質以外の重要課題に関する方針管理活動/直近

中期経営計画で財務目標と合わせESG目標を設定、あわせて全社経営目標としている。ESG目標はステークホルダーの要請を踏まえて設定されており、重点的に取り組む7つの重要社会課題（マテリアリティ）に紐づく形で、CO2や再エネ、女性管理職比率、従業員エンゲージメントなどの全社ESG目標が設定されている。ESG目標は将来の財務を生み出すための取り組み（将来財務）と位置づけており、中長期的な成長に不可欠な企業活動に対し目標設定をおこなっている。目標はさらに各部門にブレイクダウンされ、部門としてPDCAを回しており、実効性を高めている。また、取締役の報酬にESG外部評価のレーティングを反映するとともに、執行役員についてもESG目標が報酬・評価と連動する仕組みとなっている。これら経営システムを確立したことで、環境、社会、ガバナンスなどサステナビリティに関する近年高まるステークホルダーからの期待に着実に応える経営品質を実現している。また、明確な指標を掲げて活動し、実績を積極的に公表してきたことで投資家・株主、顧客との対話が促進され、企業価値向上、競争力強化にも繋がっている。

2.市場品質不良コストの売上高比率

「回答の分布」



貴社回答

0.2%未満

	社数	平均
全体	134	0.34
貴社業種	22	0.10
指定企業	10	0.05

「分析軸別平均値」

平均		平均	
【業種】		【全社売上高】	
食品・水産	0.01	500億円未満	0.35
化学・繊維・医薬品	0.10	500～1000億円未満	0.31
石油・ゴム・窯業・金属	0.20	1000～2000億円未満	0.26
機械・精密機器	0.65	2000～3000億円未満	0.15
電気機器	0.50	3000～5000億円未満	0.38
輸送用機器	0.29	5000～1兆円未満	0.34
建設	0.21	1兆円以上	0.63
その他	0.46		
【業態】			
素材	0.09		
部品	0.29		
組立	0.58		
サービス	0.28		